

『設計』駁感

斷片語錄

早稲田大學教授 佐藤 功 一
工 學 博 士

苦しいこと二三。但しこの『苦』は決して肉體的の『苦』ではない、または萬人共通の『苦』でもない。自我的心的な『苦』さでも言ふか、かうしたことを心的苦と思ふ人にさつてこそ感ずる『苦』であるかも知れぬ。

× × ×

私は設計をする。そしてよく設計を依頼される。その設計は事務所建築もあり、住宅建築もある。種々なものを依頼される。

が、その中で住宅の設計にはかなり悩まされるつまりむづかしいといふ譯である。それに比ぶれば事務所の設計はずつと易い、事務所の方は、事務さいふ本質に従つて、『事務を辨する』上に於て支障なく出来ればよいとする、多少は人々に依つて趣向的意志は在るであらうが、それも極めて微温的なもので一般に『事務さへ執れれば』よいとしてゐる。

ところが住宅になるとそう簡單直明にはまららない。住む人はそこに自分の全生活を委ねるところだから、いろんな注文が出る。それお誰でもさうだらう、自分が多くの金を出して自分の住宅を造る、それには自分の全生活を考へて、その思ふやうにしたいといふ欲求がある、これは極めて自然のこゝだ。

然し人々には大小高低それぞれの主義がある、趣味がある、嗜好がある。而も一家族の

中にも分立がある、主人の主義、主婦の趣味御隠居さんの嗜好、これらのそれぞれに合致するやう、或は少くとも意に添ふやうに設計しやうとするところは設計者の『苦』であり、妙である。

が、依頼者さいふものは『設計圖』をみただけではよくは分らない、壁が塗られたり雑作が入れられれたりする段になつて初めて『こ

ゝはこれではいけなかつた』さか『あすこは違ふ』さか言ひ出す。そしてまた水道煖房湯殿瓦斯便所等も、西洋と違つて、多くは間に合せ物が多い日本では、設計者の『苦』を破るやうなところもある、大きな工事では専門的になつてゐるからよいが、大抵の住宅は間に合せ物を設計者が云爲しなればならぬ。一面牧師のやうな考へ。一面荒神に奉仕する密教僧のやうな考へ。また誰やらのいつた『小鮮を煮る如き』考へ或はまた幼稚園の保姆が持たねばならぬやうな考へ。斯さいふ考へに間斷



Dr. K. Sato.
Professor of The Waseda University
Architectural Division.

工學博士 佐藤 功 一 氏

なく支配される。

× × ×

かうして出来上つた住宅におさまつた人々の多くは、知人友人等に話すに『これは私が設計してかういふ風にした』さいふ、或は『自分が骨子を設計して後は誰にかやつてもらつた』或は『誰々技師に依頼したがさうも考がよくないので、ここは自分の意見で斯ふした』

こいふ。六十パーセント乃至七十パーセントの人々はかういふ。すつこ若い折は自分の藝術だこいふやうな考が強く支配したもので、かういふ言葉を不平に思つたが、この頃は、『あゝ兎に角あれで満足して呉れたか』こいふ氣持が寧ろ自分を喜ばす。

× × ×

設計だけを別の人にやらせて、工事監督はまた別個の人にやらせる、そして出来上つた物に對しては、誰々の作こいふ銘をうたはれる。これが一番つらい。それは私の設計圖と仕様書とは書いたが、仕事は私は関係しないのだこゝろ辨解して歩くわけにはゆかない設計だけの仕事はやらぬ事だ。だが設計だけ取上げたあとで、それをだまつて他の人にまかせたのに苦情をいふ譯にもゆきかねるふしがある場合がある。これが何よりもつらい。全體設計と工事とは引き離し難いものだ。

× × ×

設計が完全に出来てゐれば工事は簡單直截容易に出来上る、この場合は監督の方は割合に樂だ。反對に、設計が不完全なればなるほど、施工は捗らない、従つて設計者は屢々現場に行つて監督をしなければならぬ。この場合、依頼者は何と言ふか。前者の場合は『跡々監督も来て呉れない』こいふ批難的言辭後者の場合は『設計者は熱心にやつて呉れた。』こいふ感謝的讚辭が出る。却々かういふ苦勞はほんたうに工事に當つた人でなければわからない。

× × ×

輒近、工場建築が非常に難かしくなつた。事務所建築などより寧ろ難かしくなつた。以前は千變一律單純なものだつた、中で仕事をする大きな上屋を作るやうであつたのが、この頃は科學の進歩、工業の發達、技術の複雑性及微妙性から、工場の多くは極めてスペシャルなものになつた、従つてその設計は却々骨が折れるものとなつた。

× × ×

何ぞかして新しい施工をしたい、余り在り來りのこはしたくない、こいふ熱心のあまりに未だ使用したこのない材料を使ふ、この時は屹度失敗する。誰が何う言はうが、如何に廣告に立派な成績が書いてあらうが、見本が見事であらうが、確實な實驗的報告を得ぬ間は決してそれに誘惑されてはならぬ。

× × ×

英國の言葉にアーニングこいふのこ、プロフェッションこいふ言葉がある。アーニングこいふのは簡單に言ふこ『只金を得るために仕事をする』。プロフェッションこいふのは『仕事をやるここの第一義は、生きる上に、何かよい仕事をして見たいこいふこことであつてそこには金錢以外の欲求がある』こいふ意味である。唯物史觀と唯心史觀との對立にも似てゐる。現在日本でもよく言はれてゐる。

技術家こいふものはプロフェッショナルな心情を多分に持つてゐる。何かよいものを造らう、こいふ心を持つてゐる。所謂藝術的良心こいふものを——。こころが世の中の人にはさうは思はぬ『金がもうかりませう』こ、これだ。

× × ×

設計監督者と工事請負者が協同一致して仕事をしなければよい建築は出来ぬ。此の協同一致こいふ事が至難な事である。請負者の現場の代理者には金の事ばかり考へて却々こちらのいふ事を腹に入れぬ人もあるが、中には仕事に却々忠實な人がある、かういふ人々は此方から晚餐にでも呼んで尙一層親密に話をして見たい氣持も起るが、そこまでしては弊害があるだらうからこれはしてはならぬ、これには建築依頼者が中心になつて兩者をして私心なき親密さを結ばしめ、三人が心を共にしてお互に寛大によい建築の完成に向て努力するやうにしてくれたなら、屹度立派な仕事になるに相違あるまい。